

大阪経済大学学長 × 大阪市長 特別対談 「いっしょにやってみよ 大学と行政」

去る5月26日、大阪経済大学では創立80周年を記念し、徳永学長と平松大阪市長の特別対談を開催。大学がひとつの地域存在として、学生もまたその地域に住む生活者として、行政と協働し、どう地域づくりに関わっていくか。大阪市内にある4年制私立大学として大阪市長の平松邦夫氏を迎え、行政との協力による新しい地域づくりについて意見交換を行った。

—まずは、大阪経済大学、そして大阪市における現在の取り組みについてお聞かせください。

徳永 本学は「つながる力No.1」という合言葉で大学づくりを進めてきました。それは、学生と学生、教職員と学生、企業社会、国際社会とさまざまに広がりますが、今、さらに具体化したいのは地域社会とのつながりです。いきなり日本の社会を変革するといった大きな問題ではなく、学

生が主体となって地域住民の目線に立ち、地域が抱える小さな課題から解決していく。そういった取り組みを目指して、2006年に本学は東淀川区と「協働連携に関する基本協定」を結びました。そして、地域に住む中高年層の健康増進教室「きさんじ塾」や防災をテーマにした「経済学特殊講義」などを企画・実施し、学生たちと地域が支え合いながらサポート活動を行ってきました。今後も行政と連携を深め、さまざまな取り組みを実施していきたいと考えています。

平松 学長がおっしゃる“つながり”や“支え合い”といったことが、今ほど重みを増している時期はないと思います。私も市長になって3年半ですが、「なにわ元気アップ会議」や「サプライズ訪問」など多様な方法で、地域の方々と直接対話する機会を設け、市政改革を進めてきました。大阪市の基本の柱は、地域防犯対策、放置自転車対策、ゴミ減量対策の3つ。

ここ数年ですべての課題が改善に向かい、とくにひどかった街頭犯罪発生件数も全国ワーストワンを返上しました。また、東日本大震災後は被災地である岩手県釜石市への継続的な対口支援を行うとともに、大阪市内の中学校区にて「防災フォーラム」



東日本大震災後、学生が自主的に募金活動を開始。毎週月曜日に上新庄駅周辺で行ってきた

を実施。防災意識の向上と地域コミュニティづくりに力を入れています。

ボランティアに重点を置き 地域との交流を図る

徳永 私も4月28日から5月1日まで、学生や先生とともに宮城県南三陸町に入りました。言葉にならないような状況のなかで感じたのは、若い人たちの力はすごいなということ。中国や韓国からの若者も国を越えてボランティア活動に励んでいる。被災地の支援に向けて、若い力は大事ですね。本学の学生たちも募金活動をしたと申し出て、自分たちで警察に申請書を出し、上新庄駅の周辺で行ってきました。

平松 こうした非常事態にも、大学生のみなさんと地域の方々との協力体制ができていれば、それは共助に



今回開催された記念講演会には、学生だけでなく地域住民の方々も参加。徳永学長と平松大阪市長の特別対談に関心を持った多くの人が集まり、大阪経済大学の会場は満員となった



つながりますね。学生のみなさんが自主的に行動する流れができつつあるようですが、それをどのように拡大していこうとお考えですか。

徳永 大学としては、ボランティアに重点を置きたいと考えています。本学は広域避難所になっていることでもありますので、日ごろからこうした活動に取り組む必要があります。具体的には2011年度の「経済学特殊講義」として、秋学期からスタートする予定です。例えば、ひとり暮らしの高齢者の家を訪ねるといった小さなことから積み上げていって、地域の方々とのコミュニケーションを図っていきます。もうひとつは、教職志望の学生たちが小・中・高において、学習補助などを担う学校支援学生ボランティアを行う。学生も教育の現場を学ぶことができ、地域にもプラスになると思います。

大学周辺のエリアを キャンパスと考える

平松 大学と地域がどうつながっていくのか。実際に、活動を積み重ねてこられて今日に至っている。素晴らしいですね。実は、今年の1月の地域懇談会で大阪経済大学の学生から「通学途中の商店街ではシャッター

が閉まった店がたくさんある。行政と大学と地域のみなさんで、何か活性化する方法はないだろうか」という意見が出ました。自分たちにも何かできることはないかという前向きな思いが、能動的な動きにつながっていくのではないかと大いに期待できます。

徳永 そうですね。地域のみなさんと少しずつ積み上げてきて、学生のポテンシャルも上がってきています。



大阪市長 平松邦夫氏

Profile 1971年3月に同志社大学法学部を卒業後、毎日放送にアナウンサーとして入社。2007年11月、大阪市長に初当選。民間出身の市長として、さまざまな行政改革に積極的に取り組む。

そこで、ひとつアイデアがあるのですが、本学は学生数7,500人の中規模の大学で、キャンパスもさほど大きくありません。ですから、例えば最寄りの上新庄駅と本学、そして数年前にできた地下鉄の瑞光四丁目駅までのエリアをすべて大学のキャンパスと考えたらどうかと思うんです。一例として、学生たちは自発的にマナーアップキャンペーンの活動を行っており、ゴミ拾いなどを行っていますが、それをキャンパス外のエリアまで広げていく。エリアとして考えていくことが、地域づくりにもつながるのではないかとと思うのです。

Uスポット構想で 活気ある地域づくりを

平松 大阪市内には4年制の大学が幾つかありますが、京都に比べたら圧倒的に大学生の数が少ない。これは、昭和39年に近畿圏に制定された工場等制限法という法律によって、大規模な工場や大学キャンパスなどの新增設が制限されたためです。それが、平成14年まで続くわけですが、大阪経済衰退の原因のひとつともいわれています。そんな中で、大阪市内にとって大学のある場所というのは、若い人たちの活力や前向きなエネルギー



大阪経済大学 学長 徳永光俊氏

Profile 1975年3月に京都大学農学部を卒業後、1989年に京都大学にて農学博士の学位を取得。1985年に大阪経済大学経済学部の専任講師に就任し以後、助教授、教授を歴任。2010年より現職。

ギーを感じられるところであることは間違いありません。ですから、学長がおっしゃるように、大学一帯のエリアをキャンパスと考えることはとてもいいアイデアですね。自分のキャンパスだからきれいにしようとか、地域を盛り上げていこうという動きにつながっていくと思います。

徳永 そうあってほしいですね。東淀川区の4年制大学として、京都のような学生街をつくっていきたいと思っているんです。例えば、こういう構想があるのですが、「ユニバーシティ」のUと「あなた」のYOU(ユー)をかけた「Uスポット」という造語をつくる。それを本学周辺で学生と地域住民が交流できるスポットに冠してしまう。「Uスポットふれあいセンター」「Uスポットかみしんプラザ」「U


スポット大経大」とか。さらにそれを「Uタウン上新庄」に広げて、地域の方々と町づくりをしていく。駅前にはシャッターが下りている店ばかりでなく、ショップや飲食店が多数あるので学生たちが気軽に行けるような雰囲気づくりや料金設定にご協力いただき、町の活性化を図るわけです。そして、それが「Uシティ東淀川」まで広がったら嬉しいですね。こうした若者と溶け合う形の地域づくりには、区長や市長のお力を借りなければいけないと思いますが。

平松 経済活性化というと、シャッター街のようなところを何とかしようという一点に目が行きがちですが、学長がおっしゃるような構想はおもしろいと思います。今、元気が残っているエリアを学生と地域の方々で



対談後の質問コーナーでは、徳永学長と平松大阪市長両者にさまざまな質問が投げかけられた

さらに広げていく。「いっしょにやってみよう」ということで、行政もぜひ協力したいですね。

徳永 ありがとうございます。「地域とともに歩む大学、地域から愛される大学」をキャッチコピーとして、大学と地域の境界をなくす。そういうボーダーレスな大学・地域づくりを目指していきたいと思います。 

Jump up!



大阪経済大学は創立80周年を迎えます

大阪経済大学は、1932年に浪華高等商業学校として発足し、1935年に昭和高等商業学校として再出発して以来、経済・経営系の高等教育・研究機関として発展を遂げ、2012年に創立80周年を迎えます。そこで、Jump up!(飛翔!)を合言葉に、次の4つの柱からなる記念事業に取り組んでいます。



創立80周年記念事業の一環としてキャンパスの整備が進む

① 教学組織・教育内容の充実

社会の変化に柔軟に対応できる教育組織の編成、カリキュラムの充実、進路支援の充実、ゼミナール活動の発展、学生奨学金制度の充実、大学院の充実など

② 教育環境の整備

新体育館・学生会館、研究棟、新図書館などキャンパス整備事業、安全・安心とエコに配慮した環境整備など

③ 大経大パワーの発信

課外活動支援事業、多彩な社会人向けプログラム、研究所関連事業、学部付置センター関連事業など

④ 「つながる力」の向上

記念式典の開催、記念シンポジウム・イベントの開催、学生参加事業、国際交流事業、企業連携事業、地域連携事業、卒業生交流事業、後援会連携事業など



つながる力。
大阪経済大学
OSAKA UNIVERSITY OF ECONOMICS

大阪府大阪市東淀川区大隅 2-2-8
TEL.06-6328-2431
<http://www.osaka-ue.ac.jp/>

